

行政事業レビューシート (国土交通省)

予算事業名	アドホックネットワーク簡易水位計実用調査	事業開始年度	平成21年度	作成責任者		
担当部局庁	河川局	担当課室	河川計画課河川情報企画室	室長 五道仁実		
会計区分	一般会計	上位政策	自然災害による被害を軽減するため、気象情報等の提供及び観測・通信体制を充実する			
根拠法令 (具体的な 条項も記載)	水防法(第13条)	関係する計画、通知等	「重点計画－2008」(平成20年8月20日IT戦略本部決定)			
事業の目的 (目指す姿を簡潔に。3行程度以内)	局地的な大雨や集中豪雨等により洪水・浸水被害が多発している状況を踏まえ、水災害監視の強化や洪水予測の高度化のため、必要となる密度の高い水位観測を実施するための観測技術の実用化を図ることを目的とする。					
事業概要 (5行程度以内。別添可)	従来に比べ安価で施工性の高いアドホックネットワーク簡易水位計 <sup>※</sup> を試験的に導入し実証実験を行うことにより、従来より密度の高い水位観測技術の実用化に向けた検討を行う。  <small>※アドホックネットワーク簡易水位計とは、 水位計自体が無線で水位データ通信ネットワークを自動的に構築する機能を有しており、別途インフラを整備することなく、多数の水位計をリアルタイムでオンライン化することが可能。</small>					
実施状況	平成21年度は、大川川及び中小河川を対象にアドホックネットワーク簡易水位計を用いた実証実験を行い、実際に水位観測を実施し、観測精度や水位計の耐久性等について検証した。					
予算の状況 (単位:百万円)		19年度	20年度	21年度	22年度	23年度要求
	予算額(補正後)	-	-	28	-	-
	執行額	-	-	27		
	執行率	-	-	95.7%		
	総事業費(執行ベース)	-	-	-		
自己点検	支出先・用途の把握水準・状況	業務の契約額、支出先及び契約方式等を把握するとともに、業務の全体計画や進捗状況等について支出先との打合せ等により確認し、事業の効果的・効率的な実施に努めている。				
	見直しの余地	今後においても調査手法等の改善を通じ、効果的・効率的な事業遂行に努める。				
予算・監視の効率化	【事業廃止】 大川川及び中小河川を対象に、アドホックネットワーク簡易水位計を試験的に導入した実証実験を実施するなど、本事業の内容は概ね終了し、一定の成果が得られたことから、廃止。 ただし、各種のマニュアル、指針、資料、手引き案、評価方法などが成果とのことであるが、このような資料がどの程度利用されて、政策目標を達成したかが真の成果ではないか。行政評価では、作成物はアウトプット、作成物の効果をアウトカムと呼称するが、政策評価は操作不可能なアウトカム指標で測定するべきと考える。					
補記	【予算科目】 ・126 水害・土砂災害対策費 ・05-95 水害・土砂災害の防止・減災の推進に必要な経費 (21年度予算額) (21年度決算見込額) ・95016-2123-09 水害・土砂災害対策調査費 28百万円 27百万円					

資金の流れ  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)  
(単位:百万円)

国土交通省  
27百万円

河川に関する情報等の収集、  
処理及び提供に係る企画・立案等



A. 九州地方整備局  
27百万円

事業に係る調査検討、業務発注及び監督



【プロポーザル方式】

B. (株)建設環境研究所  
27百万円

水位計の実証実験等

**費目・使途**  
 (「資金の流れ」  
 においてブロックごとに最大の金額が支出されている者について記載する。使途と費目の双方で実情が分かるように記載)

A. 九州地方整備局			E.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
調査費	水災害リスクに対するアドホックネットワーク簡易水位計実用化検証	27			
計		27	計		0
B. (株)建設環境研究所			F.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
請負費	水位計の実証実験等	27			
計		27	計		0
C.			G.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
計		0	計		0
D.			H.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
計		0	計		0